

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
27	川崎市立高津中学校	高村 寛

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○敬愛 思いやりの心をもとう</li> <li>○忍耐 苦しさに耐える意志をもとう</li> <li>○向学 学習の意欲をもとう</li> <li>○健康 丈夫な体にきたえよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○豊かな心の育成・支援教育の推進</li> <li>○確かな学力の育成・自ら学ぶ力を育む</li> <li>○体験活動の充実・キャリア教育の推進</li> <li>○開かれた学校作りの推進・地域活動の充実</li> <li>○働き方改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己肯定感の向上、支援教育の推進</li> <li>・基礎基本の定着、指導力の向上</li> <li>・体験活動の充実、挨拶の励行</li> <li>・地域活動への参加、学校運営協議会の発足</li> <li>・働き方改善の視点での業務改善</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 豊かな心の育成・支援教育の推進 ・自己肯定感の向上、他者理解の促進 ・人権尊重教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○かわさき共生＊共育PGの計画的な活用</li> <li>○人権尊重教育を推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生：ブランドサッカー実習</li> <li>・2年生：講演会 地域で共に生きる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○91%の生徒「楽しく学校生活が送れている」にそう思うと回答している。</li> <li>○かわさき共生＊共育PGについては、各学年で計画的に活用がなされ、自己肯定感の向上及び、他者理解に努めた。</li> <li>○ブラインドサッカーの実習を通じて、福祉に対する考えを深め、文化祭で展示した。</li> <li>○講演会を通じ、障害者とともに地域で暮らしていくことについて考えを深めた。</li> <li>○SOSの出し方授業を行い、生徒の相談する機会が増えるように図った。</li> <li>○いじめ防止基本方針については、毎年見直しを図り、実態に即したものにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわさき共生＊共育PGについては、各学年で計画を立てて進めていく。</li> <li>・各学年で、講演や実習を通して、自己肯定感の向上や人権尊重教育の推進を図っていく。</li> <li>・SOSの出し方についての授業も、継続して年に1回行っていく。</li> <li>・いじめと疑われる事案については、いじめ防止基本方針に則して、早期に対応する。</li> </ul>
2 豊かな心の育成・支援教育の推進 ・個に応じた指導 ・支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談を充実</li> <li>○個に応じた指導および支援を必要とする生徒への適切な対応</li> <li>○登校渋り、不登校生徒へのスタディールームの有効活用</li> <li>○放課後の学習サポートの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スタディールームは、非常勤講師・教員・ボランティアを配置し、支援教育Coを中心に、学年主任、担任が連携を図りながら、有効活用することができた。</li> <li>○支援教育推進会議で、支援教育Coや学年主任を中心に、通常学級に在籍する学習に対する課題を抱えている生徒への手立てについて、定期的に情報交換する機会を設けることができた。</li> <li>○夏期休業中に、講師を招いて研修会を持ち、支援教育への理解を深めた。</li> <li>○放課後の学習サポートについては、場を設定しても利用者が少なくまだ不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の充実を図り、必要に応じて生徒の支援体制を整えていく。</li> <li>・スタディールームは利用希望者が増加しているため、増室を検討していく。</li> <li>・引き続き、支援教育に関わる研修を外部講師を招いて行い、生徒理解及び教職員の支援教育に関わる意識を高め指導力の向上を図る。</li> <li>・次年度寺子屋が開設されるので、放課後学習のサポートに役立てる。</li> </ul>
3 確かな学力の育成・自ら学ぶ力を育む ・基礎基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>○習熟の程度に応じた指導の推進</li> <li>○生徒が自ら学ぼうとする姿勢を育てるためにICT機器（GIGA端末）の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語・数学・理科・保体の授業におけるT・T授業による指導を実践した。「わかりやすい授業をしている」問いのアンケート結果から9割以上、「思考判断力を高める授業」に関しては88%の生徒からできているという回答を得られた。これからも、学びの意義を実感できる授業改善、対話的・深い学びから主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざした、授業の実践に努めていく。</li> <li>○一人一台端末の有効活用については職員によって使用頻度にばらつきがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いを積極的に取り入れる授業が浸透してきた。今後も引き続き実践していきたい。</li> <li>・わかる授業、生徒の学習に対するモチベーションをさらに高めていくように、研究を進める。</li> <li>・GIGA端末については職員のスキル向上を図り、有効な使用方法を探っていく。</li> </ul>
4 確かな学力の育成・自ら学ぶ力を育む ・授業力・指導力の向上 ・学習評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領の趣旨に則した、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</li> <li>○3観点に整理された評価の観点の趣旨の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○85%の生徒が「学力が適切に評価されている」と答えているが、保護者では、67%に止まっていて、よくわからないという回答も18%あった。</li> <li>○年に二回の校内授業研究会を実施し、予め見方を焦点化し、授業を見学したため、話し合いが活発になった。</li> <li>○「主体的に学習に取り組む態度」の見取りについて、6月に講師に來校していただき、あらかじめ提出した、評価方法などを元に、適切な評価について研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も長期休業などを有効活用し、研修時間を担保して、教職員の授業・指導力の向上を目指したい。</li> <li>・各教科で年間計画を立てた上で、評価の制度を高められるように情報の収集と研鑽に努める。</li> <li>・授業内での形成的評価も含め、生徒が進歩を実感できる評価の仕方も大切にしたい。～小さな成功体験の積み上げ～</li> <li>・川崎市学習状況調査の結果を基に、各教科で課題を発見し、改善方法を探っていく。</li> </ul>

5	体験活動の充実・キャリア教育の推進 ・体験活動の充実	○生徒の主体性を重視した学校行事の運営 ○体験活動の充実 ・職場体験活動	○85%の生徒が「行事等で自分の意見やアイデアを生かせる」と回答している。 ○学校行事（体育祭・文化祭・合唱コンクール）を生徒会や各実行委員会等の総意と発意を大切にされた運営を心がけ、生徒の主体性を重視し自己有用感の育成を図れた。 ○3年ぶりに職場体験を行い、働くことの大変さや協働して活動することの意義を学ばせる事ができた。 ○各行事において、教員と生徒が創造力をもって力を合わせて新しい方向性を見出す事ができた。	・来年度も引き続き、生徒の声に耳を傾け、生徒の自主的・主体的な学校行事が運営されるように、生徒をサポートしていききたい。 ・コロナ禍前に行っていた活動を再開し、新たな実施方法を検討していく。 ・一人一台端末などを有効利用して、学校外部との交流なども模索する。
6	体験活動の充実・キャリア教育の推進 ・規則正しい生活 ・挨拶の励行	○時間や決まりを遵守した学校生活 ○挨拶運動の展開	○元気なあいさつを交わすことが本校の伝統であり、生徒もこの伝統を大切にしたいと考えている。近隣の方々にも「あいさつの高津中」として、評価をいただいている。しかし、一方で、以前のような挨拶ができていない、というご指摘も少なからず出てきている。 ○月を追うごとに登校時間が遅くなる生徒が、増えている。 ○81%の生徒が「部活動や生徒会活動に熱心に指導してくれる」と答えている。	・生徒からも挨拶を大切にしていきたいという意見が出ているので、本校の伝統としてあいさつ運動を継続するとともに、日常でのあいさつの習慣を意識づけ、「挨拶の高津中学校」の伝統を引き継いでいきたい。 ・教職員自ら率先して、生徒に心のこもった挨拶を行い、挨拶を含め、登下校時のマナーについて指導していく。 ・生徒会にも投げかけ、登校時間を早める取り組みを考えていく。
7	開かれた学校作りの推進・地域活動の充実 ・地域活動への参加 ・家庭・地域との連携	○地域や保護者と連携した学校行事等の実施 ○積極的な情報発信	○お祭りや地域活動への参加・協力をすることで、地域の中の学校としての役割を担う事ができた。 ○学校・学年便り、各種通信やHPを通じて、情報を発信する事ができた。 ○職場体験やDIGなどの機会に地域の方の力を有効に活用することができた。	・今後も、地域の力を学校が活かせるよう、地域に協力をいただくことを一層層探っていく。 ・HPの定期的な更新をおこなう。
8	開かれた学校作りの推進・地域活動の充実 ・学校運営協議会の発足	○学校運営協議会の発足と円滑な運営	○今年度、学校運営協議会を発足し、委員の方々からの意見を学校運営に生かす事ができた。 ○消防署やSELFの方々やDIG研修の研修を行い、地域防災について学習することができた。	・学校運営協議会の委員の方のネットワークを生かし、地域の方の人材を活用し、活動の場を通じて生徒と地域との関わりを深めたい。
9	働き方改革の推進 ・働き方改善の視点での業務改善	○ノー部活デーの設定 ○会議の精選、簡略化 ○計画年休の推進	○原則として毎週月曜日をノー部活デーとして、時間外勤務の縮小を図ることができた。 ○コロナの終息を機に、計画年休の取得を促した。	・ノー部活デーについては、次年度も原則月曜日に設定し行っていく。 ・計画年休も前後期に1回ずつは取得できるように促す。
学校関係者の評価			学校運営のまとめ	
<p>学校運営協議会の委員の方に、多くの場面で子供たちの活動を見ていただき、感想やご意見をいただいたので、改善を図っていく。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染防止対策を施した体育祭や文化祭などを実施したが、工夫された学校運営に対する感謝の言葉をいただいている。</p> <p>○今年度は、学校と保護者・地域との連携が少しずつ戻っていたが、まだ学校の様子がよくわからないという声が聞かれた。学校行事は、生徒の安心・安全を第一に、復活させるものは形を変えて復活させて実施して学校運営を行ってきたが、心配する声は少なくなっている。</p> <p>○部活動については、よくやっていただいている（先生方への感謝も）という声と、縮小して欲しい（ボランティア活動や教科以外の学びたいこと等を行わせたい）という両方の意見があることを伝え、教職員の働き方改革を踏まえて適切に運営していく。</p> <p>○校則の見直しについては、次年度も生徒から出された意見を、生徒会等で考えさせて進めていくことを伝え、その方向が望ましいとの声をいただいた。</p> <p>○学習評価については、昨年度よりもわかりづらいとのご指摘が少なくなっているが、まだ不十分だと感じていることを伝え、生徒には年度当初の授業内で分かりやすく説明し、保護者には教育課程説明会で話をしていく。</p> <p>○生徒・職員の挨拶が物足りないという声をいただき、次年度も挨拶運動などを通じて、お互いに元気よくあいさつできる学校にしていく。</p>			<p>・今年度、学校教育を運営するにあたって、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、生徒の満足感・達成感を得ることのできる教育活動を行ってきたが、今後も数年ぶりに行う活動の復活や新たな取り組みを工夫していく。</p> <p>・GIGAスクール構想に伴うICT機器の有効活用については、アプリの使い方など実際に即した職員の研修を行いながら研究していく。</p> <p>・指導と評価の一体化については、今年度行った、主体的に取り組む態度の評価の研修を生かしつつ、学習評価が生徒にとって励みになるよう、研究していく。</p> <p>・スタディールームの運営や放課後学習サポートについては、支援Coが中心となり、非常勤講師や外部人材を活用しながら、より効率的な運用と効果的な活用をめざして、さらに支援教育を充実させていきたい。</p> <p>・次年度は今年度以上に、学校と保護者・地域が、多方面で連携できるよう行事計画を立てていきたい。</p> <p>・部活動については、教職員の働き方改革を踏まえ、より効率的な運営（いくつかの休部も視野に入れ）、指導に必要な適切な人材（外部指導者以外にも）の確保も含めて今後も検討していく必要がある。</p> <p>・地域に開かれた教育課程の創造の1つのアプローチとして、地域に出て活動すること以上に地域の力を学校に取り込めるよう、今年度立ち上げた学校運営協議会の力を借り、地域との連携の強化および協力者の開拓を進めていきたい。</p> <p>・教員の働き方に関しては、今年度の成果と課題を明確にし、継続的に取り組みを進めていきたい。</p>	